

課題・研究期間・評価	<p>新燃岳噴火に伴う大気汚染物質の拡散状況の解析</p> <p>研究期間：H23</p> <p>評価： 4（高く評価できる）</p>	意見1	・大気汚染物質が増加して県民の健康リスクとなった場合、どのような対策が必要であるか検討してもらいたい。
		対応	・県内の大気汚染物質濃度は、インターネットにより、リアルタイムで、県民や関係機関に広く情報提供しているところである。また、緊急時には注意報または警報を発令するシステムがあり、県民へ周知するとともに保健所を通じて県内の医療機関に情報を伝達することとなっている。今後とも、迅速な情報収集に努めたい。
		意見2	・近隣県と連携して、監視地点を増やして、かつ、多くの汚染物質が測定できる体制をとってもらいたい。また、噴火後早い時期に警報・注意報が発令できる体制作りをおこなってもらいたい。
		対応	・今年度中に小林保健所に測定局を新設し、新燃岳の監視体制を強化することとなっている。また、鹿児島県とはデータの情報交換を行ってきたところであるが、今後は熊本県とも連携して、より広域的にデータを収集し、大気汚染物質の監視を実施していきたい。
		意見3	・大気汚染物質に対する噴煙の負荷は一樣ではないので、噴煙の上昇高さや上昇速度などの測定可能な要素を使って仮説を設定することが必要である。
		対応	・今後、大気汚染物質の濃度上昇の要因について調査を行っていききたい。具体的には、風向や風速などを始めとする気象データやシミュレーションソフトなどを使って求めた流跡線と大気測定データを比較していくことを検討している。